# 歌いつぐ童謡のこころ「こだいら・雨情うたまつり」に寄せる思い

## 童謡研究家・作曲家　横山太郎さん

昨年の第2回開催のフィナーレ

第3回こだいら雨情うたまつり
5月17日（日）　午後2時開演
ルネこだいら大ホール　（料）500円

3月3日ひなまつりの日、ルネこだいらレセプションホールは百人を超す人々の歌声で満ちていた。「うれしいひな祭り」に始まり、「あざみの歌」「青い山脈」「高校三年生」「小平音頭」に至るまで、参加者はビールを傾け、寿司やサンドイッチをつまみながら歌い、青春時代が甦ってくるような楽しい集いだった。

この6回目を迎えた「横山太郎氏とともに愉しむうたごえサロンinルネ」で2時間余りもアコーディオンを弾き、司会もし、共に歌い、と一人舞台だったのが横山太郎さん（74）だ。「本格的なうたごえ喫茶復刻版をやってみたい」という思いが小平の有志を動かし、はじまった催し。この日は横山さんの友人で、往年の人気歌手、霧島昇・松原操夫妻の三女である声楽家の大滝てる子さんも一般参加。父上のヒット曲「誰か故郷を思わざる」のときはその美声をサプライズで聞かせてくださり、会場が大いに盛り上がった。

若い頃は新宿のうたごえ喫茶のバンドリーダーとして、その後はNHKテレビ番組のアコーディオン奏者として活躍した横山さん。さらにビクターレコードで作曲、編曲の専属となり、多くのレコードを生み出した。各社競作による昔話のLPのバックミュージックの作曲、金沢明子の民謡など、当時、人気を博したレコードの制作に携わった。

また、演奏家から作曲家へ切り替える頃には、仲間とイベントの企画会社を立ち上げ、クリエーターの経験も。大手広告代理店のブレーンとなり、最先端企業によるトップ企画のPRに取り組んだ。このような体験がその後の「童謡運動」の中で大いに役立ったという。

25年ほど前からタレントに頼らない、市民参加の童謡運動を各地で展開して、地域のまちおこしにも一役買っている。そして、ここ4年間はJRの会員制旅行クラブの会報「ジパング倶楽部」に毎月「名曲の舞台を訪ねて」のページを執筆し、全国約50ヵ所を訪問。「われは海の子」「旅愁」「五木の子守唄」など歌を選び、場所を選んで紹介し、日本各地の人々との輪ができた。

3/3ルネでのうたごえサロンで

横山さんは童謡運動で3本の柱を提唱している。「童謡唱歌を歌って若返りましょう」「その運動を地域社会に役立てよう」「それを次の世代につなげよう」この中で最も難しいのが「次の世代へつなげる」ことである。

「七つの子」や「赤い靴」「しゃぼん玉」で知られる詩人、野口雨情のお墓が小平霊園にあることで、小平では平成19年から「こだいら雨情うたまつり」が5月に開催されている。平成16年まで9回続いて休止された「小平雨情祭」を「美しい日本語をつぎの世代へつなげたい」と、市民有志の熱い思いで復活させたうたまつり。横山さんは品川在住だが、以前から小平には知己があり、東京雨情会の理事でもあることで、実行委員会の顧問として招かれ、専門の立場からアドバイスしている。

「全国にはいくつか雨情の会があ

りますが、どこも雨情の愛好家や文化団体、研究者の集まりで、クリエーターが少ないのです。その点、小平では実業や教育、福祉、音楽関係などさまざまな分野の面白い方たちが実行委員として、雨情に取り組んでいます。日本中どこにもないくらいユニークで素晴らしい。小平は人的、文化的に巨大なエネルギーを蓄積している街です。それらを掘り起こして、「雨情」をキーワードにまちおこしの起爆剤にしてほしい」

「次の世代へつなげる」ことは単に童謡唱歌を「なつメロ」のように伝承していくことではない。童謡唱歌が辿った道は日本近代化の文化を伝えるもの。雨情の詩には単純素朴な中に「十五夜お月さん」ように時代背景がみえてくるものがあり、美しい日本語の中に深い情緒をたたえ、人の心をうたっている。そこには目には見えないけれど、私たちが失いつつある大切なものを伝えている。だから横山さんは「小学校のクラスや複数の幼稚園で参加して、皆で声を合わせて歌ったり、町会の合唱団とかも出演してもらいたい」と願う。こだいら雨情うたまつりは出演者も観客も楽しめる、市民レベルのみんなのうたまつりであってほしい。

さて3回目を迎える「こだいら雨情うたまつり」は5月17日にルネこだいらで開催される。公募で選ばれた合唱団に加えて、今年は日舞や朗読でも雨情が表現される。そして毎回大好評を博している、スズキメソードの子どもたち約百人のヴァイオリン合奏とともに横山さんも出演。フィナーレでは会場一体となり雨情を歌い、ルネの大ホールは今年も感動に満たされるだろう。

「こだいら雨情うたまつり」チケットはルネこだいらチケットカウンター（☎042-346-9000）ほか、本誌でも取り扱っています。p20の電話、ファックス、Eメールでお申込みください。